

# 介護福祉士養成実務者研修講座

## 学 則

### 1、設置の目的

本講座は「初任者研修・ホームヘルパー2級」等を修了した者を「初任者研修修了者」と位置づけ、研修期間を320時間とし、働きながらも研修を受講しやすいように「通信課程」を開設するものです。

ご案内のとおり、わが奄美地域においては、引き続いて急速な高齢化が進んでいると同時に、介護保険制度の導入以降、介護サービス利用者の「権利意識」や「コスト意識」が芽生えているなかでサービスの質的向上も求められています。

私たちは、これまでも「ホームヘルパー2級講座」・「初任者研修講座」を開講し、介護職員初任者を育成してまいりました。引き続き厚生労働省の目指す介護人材の養成体系の見直しに呼応して「介護福祉士養成実務者研修講座」を開設し、介護福祉士の国家試験に向けた幅広い領域の知識・技術の修得を目的に、内容をより理論的・実践的に学び、自立支援に資する人材を育成することを目的とします。

### 2、事業者の名称、所在地及び連絡先

事業者の名称：特定非営利活動法人 あまみネット友愛

位 置：鹿児島県奄美市名瀬古田町5-14

T E L：0997-52-5525

事 務 担 当：対島 正吾

研 修 主 任 者：福田 珠希

形 式：通信主体の課程

修 業 年 限：6か月

### 3、研修の名称

介護福祉士養成実務者研修講座

### 4、研修課程及び形式

介護福祉士養成実務者研修「通信主体の課程」

生徒定員 50名

### 5、研修の実施場所

住 所：奄美市名瀬長浜町5-6

場 所：奄美市名瀬公民館金久分館

研修期間：平成27年4月1日～平成27年9月27日

以降、5月1日入所・10月末修了、6月1日入所・11月末修了、

7月1日入所・12月末修了、8月1日入所・1月末修了。(原則入所後6か月後に終了)

## 6、入学資格

介護福祉士国家試験の受験を目指す者

鹿児島県奄美市及び龍郷町、瀬戸内町、大和村、宇検村並びに徳之島、喜界島、沖永良部島、与論島に居住する者で面接授業の全科目を受講可能な者。

## 7、入学者選考

研修カリキュラムの各課題を自学自習してレポートの提出ができ、面接授業に出席できる者

## 8、研修のカリキュラム（内容等詳細は別紙）

介護福祉士養成実務者研修講座のカリキュラムは、「初任者研修」「ホームヘルパー2級」「ホームヘルパー1級」等の有資格者の各課程に上乘せすることにより、新たに「介護過程Ⅲ（面接授業）」「医療的ケア」「コミュニケーション技術」等を知識・技術について体系的に学習することになります。

## 9、介護福祉士養成実務者研修講座の教育内容と研修時間数

教育科目並びに研修時間数については（別紙1）の資料に記載したとおりです。

また、通信主体の課程は「介護過程Ⅲ」については面接授業45時間。「医療的ケア」については講義時間（レポート提出で評価する）50時間以上と、演習（喀痰吸引、経管栄養）は面接授業を2日間（14時間）受講することになります。

## 10、受講手続き

介護福祉士養成実務者研修講座申込書、並びに運転免許証等写真による本人確認ができる証明書、資格証明書及び受講料の納入（分割を含む）確認の後、決定する。

## 11、退学、休学、復学、欠席者（遅刻、早退の扱い）

受講の許可を受けた者は、自学自習して必要な課題のレポートを提出し、評価C以上の評価をもって受講修了と認定する。

受講者の都合で退学、休学、復学、欠席（遅刻、早退）を希望する場合は、設置者（NPO法人あまみネット友愛）と面談の上、決定する。

## 12、学習の評価及び課程修了の認定

「介護過程Ⅲ」面接授業45時間、「医療的ケア」演習2日間（面接授業14時間）以外の教育科目は保有する資格によって実務者研修に必修となる時間数に相当する時間分の課題を自学自習し、与えられた課題のレポートを提出する。

通信指導、添削指導を受け、評価C以上（100点満点中の70点以上）の評価点を得なければなりません。課題は、研修時間数1時間あたり2問を基本とします。また、喀痰吸引・経管栄養については演習評価基準のA及びBの者を一定のレベルに達しているものとします。（担当講師による技術演習の習得度合いチェックを行うことで評価する）

A, 基本的に技術演習が的確に出来る。 B, 基本的な技術演習が概ね出来る。 C, 技術演習が不十

分である（Cの者は補講を行います）

なお、修了した受講者に対して実地研修は行いません。

### 13、受講料等

ヘルパー2級 初任者研修修了者	100,000円
無資格者	150,000円
ヘルパー1級 基礎研修修了者	50,000円

### 14、教職員の組織

設置責任者兼事務責任者：対島 正吾（専任）

医療的ケア：松田 操（専任）

教務主任者：福田 珠希（専任）

その他の教員：下町 勝幸、増田 幸雄、上谷由美子、榮 弘志

### 15、介護福祉士養成実務者研修テキスト等について

発行者：一般財団法人 長寿社会開発センター発行のテキストを使用

### 16、教材配布・学習開始について

受講許可を受けた者は確認後1週間以内にテキストを受け取りに来てください。テキストを受け取り次第、自学自習の開始となります。なお、課題集、レポート用紙（解答用紙）はテキストと一緒に交付します。なお、テキストを直接受け取ることが困難な方には郵送致しますのでご連絡ください。

〒894-0016 鹿児島県奄美市名瀬古田町5-14 電話 0997-52-5525（事務所）

### 17、出願にあたっての注意

- 1、一度ご提出された出願書類及び納入金は返還しません。
- 2、出願願書受付後及び受講決定後であっても、受講資格及び願書に誤りや虚偽等があった場合は、受講を取り消す場合があります。その際、納入金等（書類を含む）は返還しません。
- 3、主催者側の都合で欠講または日程変更がある場合は事前に連絡がありますので、ご承知おきください。また、主催者の都合で講座中止をする場合は、中止決定後2週間以内に納入金を全額返金いたしますのでご了承ください。

### 18、個人情報の保護について

提出された願書等の個人情報については、個人情報保護に関する法律に基づき、適正な管理・保護に努めます。また、ご提出いただいた個人情報は書類審査、受講許可及び修学全般に関わる業務に使用します。なお、上記以外の目的で利用させていただく必要が生じた場合には、改めて本人の同意をいただきます。

### 19、賞罰：なし

## 受講者に関する事項

### 20、出席状況の確認

受講者は面接授業に出席の際は、出席簿に出席の都度署名すること。なお、遅刻・早退は原則認めません。ただし、やむを得ないと設置者並びに教職員が判断した場合は補講を行います。その際は必要経費を別途徴収することとします。

21、編成された各科目の出席時間数に満たない者については、当該科目の履修の認定はしません。ただし、受講者の希望と教職員の調整により補講を実施します。

22、受講者の要請、または必要とするときは、介護福祉士国家試験の合格に向け、受講期間中に模擬試験の実施、並びに補講を行います。その際は別途1回につき3,000円徴収します。

23、受講の許可（入学の許可）を受けた者は、面接授業受講日の初日までに健康診断書を提出してください。

24、入学、修了、成績、出席状況等、受講生に関する書類は確実に保存し、プライバシー保護に関する法の趣旨を厳守します。

25、全科目を履修した者には履修証明書を発行します。

### 26、演習に関する事項。

#### ア、喀痰吸引

(ア) 口腔 5回以上

(イ) 鼻腔 5回以上

(ウ) 気管カニューレ内部 5回以上

#### イ、経管栄養

(ア) 胃ろう又は腸ろう 5回以上

(イ) 経鼻経管栄養 5回以上

### 27、実地研修に関する事項

ア、実地研修を行うことができる受講者（入学者）は、医療的ケアの講義及び演習を修了した者に限られます。

イ、実地研修の回数は、医療的ケアの種類に応じて次のとおりとします。ただし、実地研修を安全に実施するために喀痰吸引等を必要とする者等の書面による同意、関係者による連携体制の確保等の要件を満たすものとします。

#### ア、喀痰吸引

(ア) 口腔 10回以上

- (イ) 鼻腔 20回以上
- (ウ) 気管カニューレ内部 20回以上

#### イ、経管栄養

- (ア) 胃ろう又は腸ろう 20回以上
- (イ) 経鼻経管栄養 20回以上

エ、医療的ケアの修了要件として「**実地研修の修了**」が必須ではないので、**実地研修を修了しなくても養成施設を卒業**できます。もし、受講者が**実地研修を修了した上で卒業し、介護福祉士資格**を取得した場合は、**実地研修修了証明書**を交付します。

28、介護実習に関して、可能な限り医療的ケアを実施している介護現場の見学を行います。(予定施設：秋名の郷・愛寿園・龍郷の里など。)

#### 29、情報の開示

インターネットや受講者募集用パンフレット等において広く開示します。開示した情報は定期的に更新します。

学則 9、教育内容と研修時間数（別紙 1）

通信課程（資格者は資格証明書の確認によって時間数並びに提出する課題数が変更されますのでご注意ください。）自宅でテキストを学習し課題に対するレポートの提出が必要です。

初任者研修・2級ヘルパー修了者は修了証明書によって修了認定され、免除されます。

	科目（教育内容）	時間数	作問数	配点	初任者研修修了者 320h	2級ヘルパー修了者 320h
1	人間の尊厳と自立	5	10	1問 10点	免除	免除
2	社会の理解Ⅰ	5	10	1問 10点	免除	免除
3	社会の理解Ⅱ	30	50	1問 2点	対象	対象
4	介護の基本Ⅰ	10	20	1問 5点	免除	免除
5	介護の基本Ⅱ	20	40	1問 2.5点	対象	免除
6	コミュニケーション技術	20	40	1問 2.5点	対象	対象
7	生活支援技術Ⅰ	20	40	1問 2.5点	免除	免除
8	生活支援技術Ⅱ	30	50	1問 2点	免除	免除
9	介護過程Ⅰ	20	40	1問 2.5点	免除	免除
10	介護過程Ⅱ	25	40	1問 2.5点	対象	対象
11	介護過程Ⅲ（スクーリング）	45	（面接授業）		対象	対象
12	発達と老化の理解Ⅰ	10	20	1問 5点	対象	対象
13	発達と老化の理解Ⅱ	20	40	1問 2.5点	対象	対象
14	認知症の理解Ⅰ	10	20	1問 5点	免除	対象
15	認知症の理解Ⅱ	20	40	1問 2.5点	対象	対象
16	障害の理解Ⅰ	10	20	1問 5点	免除	対象
17	障害の理解Ⅱ	20	40	1問 2.5点	対象	対象
18	こころとからだのしくみⅠ	20	40	1問 2.5点	免除	免除
19	こころとからだのしくみⅡ	60	50	1問 2点	対象	対象
20	医療的ケア	50	50	1問 2点	対象	対象
	「医療的ケア」は、講義 50 時間（レポート対応）とは別に、演習「2日間：14 時間（面接授業）」を修了する必要があります。					
無資格者の研修時間数		450 h	660 問		360 問	380 問

学則8、研修のカリキュラム（別紙）

学則	領域	教育内容（時間数）	開講科目名称	課題番号
8 開講科目 対照表	人間と社会	人間の尊厳と自立 (5)	第1章 人間の尊厳と自立	1 - 6
			第2章 利用者の権利擁護	7 - 10
		社会の理解II (30)	第1章 介護保険制度	1 - 10
			第1章 生活と福祉	1 - 5
			第2章 社会保障制度	6 - 39
			第3章 障害福祉	40 - 46
		第4章 介護実践に関連する制度	47 - 50	
	課題 人間と社会 合計			70問
	介護	介護の基本I (10)	第1章 介護福祉士制度	1 - 7
			第2章 尊厳の保持と自立に向けた介護	8 - 13
			第3章 介護福祉士の倫理	14 - 20
		介護の基本II (20)	第1章 介護を必要とする人の生活の理解と支援	1 - 14
			第2章 介護実践における連携	15 - 24
			第3章 介護における安全の確保とリスクマネジメント	25 - 35
			第4章 介護職の安全	36 - 40
		コミュニケーション技術 (20)	第1章 介護におけるコミュニケーション技術	1 - 17
			第2章 心身の状況の理解とコミュニケーション	18 - 30
			第3章 介護におけるチームのコミュニケーション	31 - 40
		生活支援技術I (20)	第1章 生活支援とICF	1 - 4
			第2章 ボディメカニクスの活用	5 - 10
第3章 介護の基本技術と福祉用具の活用			11 - 36	
第4章 環境整備			37 - 40	
生活支援技術II (30)		第1章 心身の状態に合わせた介護福祉用具の活用 環境整備	1 - 50	
介護過程I (20)		第1章 介護過程の基礎知識	1 - 11	
		第2章 介護過程の展開	12 - 27	
		第3章 介護過程とチームアプローチ	28 - 40	
介護過程II (25)	第1章 介護過程の展開 (情報の収集から計画の立案まで)	1 - 31		
	第2章 介護過程の展開の実際 (実施から計画の見直しまで)	32 - 40		

	介 護	介護過程Ⅲ (45) (スクーリング)	第1章 介護過程の展開 (ガイダンス・実践編) 通学	15 時間
			第2章 介護過程の演習 通学	15 時間
			第3章 介護過程の評価 通学	15 時間
		面接授業 45 時間 課題 介護 合計		



学則8、研修のカリキュラム（別紙）

こころとからだのしくみ	発達と老化の理解 I (10)	第1章 老化に伴うこころの変化	1～6
		第2章 老化に伴う身体の変化	7～20
	発達と老化の理解 II (20)	第1章 人間の成長・発達	1～7
		第2章 老年期の発達課題、心理的な課題	8～25
		第3章 高齢者に多い症状と疾病、その留意点	26～40
	認知症の理解 I (10)	第1章 認知症ケアの概念	1～4
		第2章 認知症の心理・行動の理解と対応	5～14
		第3章 当事者・家族への支援	15～20
	認知症の理解 II (20)	第1章 認知症の医学的理解	1～20
		第2章 認知症の人のアセスメント・支援	21～28
		第3章 認知症ケアの地域サポート体制	29～40
	障害の理解 I (10)	第1章 障害者福祉の概念	1～4
		第2章 障害の定義、生活上の困難と心理・行動	5～18
		第3章 障害児・者と家族との関わり・支援の基本	19～20
障害の理解 II (20)	第1章 医学的側面から見た障害の理解	1～36	
	第2章 障害者への支援の実際	37～40	
こころとからだのしくみ I (20)	第1章 介護に関係したからだのしくみの基礎的理解	1～40	
こころとからだのしくみ II (60)	第1章 人間の心理	1～15	
	第2章 人間の構造と機能	16～32	
	第3章 具体的事例に基づく介護技術の理解	33～50	
課題 こころとからだのしくみ 合計			270問
医療的ケア (50)	基礎知識編 課題	第1章 人間と社会	1～4
		第2章 保健医療制度とチーム医療	5～9
		第3章 安全な療養生活	10～13
		第4章 清潔保持と感染予防	14～19
		第5章 健康状態の把握	20～22
	実践編 課題	第1章 高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」	23～32
		第2章 高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」実施手順	33～36
		第3章 高齢者及び障害児・者の「経管栄養」	37～46
		第4章 高齢者及び障害児・者の「経管栄養」実施手順	47～50
	課題 医療的ケア演習（喀痰吸引・経管栄養） 合計		
スクーリング (演習)	喀痰吸引・経管栄養・面接授業 2日間 14時間		
合計 (450)			

# 介護福祉士養成実務者研修（通信課程）通信課題提出数及び提出期限

（通信課題は別紙課題集）

特定非営利活動法人 あまみネット友愛

理事長 対島 正吾

鹿児島県奄美市名瀬古田町 5-14

TEL 0997-52-5525

## 【カリキュラム】

巻	科目名・項目名	時間数	課題番号	提出期限	添削担当 講師
第1巻	人間の尊厳と自立 第1章 人間の尊厳と自立 第2章 利用者の権利擁護	5	1～6 7～10	履修すべき課題の提出期限は、入学許可後3か月以内にすべての課題を提出し、採点評価を受けます。提出されたレポートは添削指導評価点数を記録して返却します。A,B,Cの評価は合格とします。D評価は再提出することになります。	対島正吾 増田幸雄
	社会の理解Ⅰ 第1章 介護保険制度	5	1～10		対島正吾 増田幸雄
	社会の理解Ⅱ 第1章 生活と福祉 第2章 社会保障制度 第3章 障害者福祉 第4章 介護実践に関連する制度	30	1～5 6～39 40～46 47～50		対島正吾 増田幸雄
第2巻	介護の基本Ⅰ 第1章 介護福祉士制度 第2章 尊厳の保持と自立に向けた介護 第3章 介護福祉士の倫理	10	1～7 8～14 15～20		福田珠希 下町勝幸
	介護の基本Ⅱ 第1章 介護を必要とする人の生活の理解と支援 第2章 介護実践における連携 第3章 介護における安全の確保とリスクマネジメント 第4章 介護の安全	20	1～14 15～24 25～35 36～40		福田珠希 下町勝幸 増田幸雄
第3巻	コミュニケーション技術 第1章 介護におけるコミュニケーション技術 第2章 心身の状態の理解とコミュニケーション 第3章 介護におけるチームのコミュニケーション	20	1～17 18～30 31～40		増田幸雄 下町勝幸
第4巻	生活支援技術Ⅰ 第1章 生活支援とICF 第2章 ボディメカニクスの活用 第3章 介護の基本技術と福祉用器具の活用 第4章 環境整備	20	1～4 5～10 11～34 37～40		下町勝幸
	生活支援技術Ⅱ 第1章 心身の状態に合わせた福祉用具等の活用、 環境整備		1～50		下町勝幸

【カリキュラム】

巻	科目名・項目名	時間数	課題番号	提出期限	添削担当講師
第5巻	介護過程Ⅰ 第1章 介護過程の基礎知識 第2章 介護過程の展開 第3章 介護過程のチームアプローチ	20	1～11 12～27 28～40	履修すべき課題の提出期限は、入学許可後3か月以内にすべての課題を提出し、採点評価を受けます。提出されたレポートは添削指導評価点数を記録して返却します。A,B,Cの評価は合格とします。D評価は再提出することになります。	福田珠希 下町勝幸
	介護過程Ⅱ 第1章 介護過程の展開の実際 —情報の収集から計画の立案まで— 第2章 介護過程の展開の実際 —実施から計画の見直しまで—	25	1～31 32～40		増田幸雄 下町勝幸 福田珠希
	介護過程Ⅲ 第1章 介護過程の展開 第2章 介護過程の演習 第3章 介護過程の評価	45	面接授業 7時間× 7日		面接授業 福田珠希
第6巻	発達と老化の理解Ⅰ 第1章 老化に伴う心の変化 第2章 老化に伴う身体の変化	10	1～6 7～20		上谷由美子
	発達と老化の理解Ⅱ 第1章 人間の成長・発達 第2章 老年期の発達課題・心理的な課題 第3章 高齢者に多い症状と疾病、その留意点	20	1～7 8～25 26～40		上谷由美子
	認知症の理解Ⅰ 第1章 認知症ケアの理念 第2章 認知症の心理・行動の理解と対応 第3章 当事者・家族への支援	10	1～4 5～14 15～20		上谷由美子
	認知症の理解Ⅱ 第1章 認知症の医学的理解 第2章 認知症の人のアセスメント・支援 第3章 認知症ケアの地域サポート体制	20	1～20 21～28 29～40	上谷由美子	
第7巻	障害の理解Ⅰ 第1章 障害者福祉の概念 第2章 障害の定義、生活上の困難と心理・行動 第3章 障害児・者と家族との関わり・支援の基本	10	1～4 5～18 19～20	上谷由美子 榮 弘志	
	障害の理解Ⅱ 第1章 医学的側面から見た障害の理解 第2章 障害者への支援の実際	20	1～36 37～40		上谷由美子 榮 弘志

【カリキュラム】

巻	科目名・項目名	時間数	課題番号	提出期限	添削担当講師
第8巻	こころとからだのしくみⅠ 第1章 介護に関係したからだのしくみの基礎的な理解	20	1～40	履修すべき課題の提出期限は、入学許可後3か月以内にすべての課題を提出し、採点評価を受けます。提出されたレポートは添削指導評価点数を記録して返却します。ABCの評価は合格とします。D評価は再提出することになります。	下町勝幸
	こころとからだのしくみⅡ 第1章 人間の心理 第2章 人間の構造と機能 第3章 具体的事例に基づく介護技術の理解	60	1～15 16～32 33～50		下町勝幸 増田幸雄
第9巻	医療的ケア 第1章 人間と社会 第2章 保健医療制度とチーム医療 第3章 安全な療養生活 第4章 清潔保持と感染予防 第5章 健康状態の把握	50	1～4 5～9 10～13 14～19 20～22	課題提出50問の他に面接授業（2日間14時間）で「喀痰吸引」「経管栄養」の実践を行い、A・Bの評価で修了とします。	松田 操
	医療的ケア（実践） 演習（喀痰吸引・経管栄養）面接授業実践編				松田 操
	実践編 第1章 高齢者及び障害児・者の喀痰吸引 第2章 高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順 第3章 高齢者及び障害児・者の喀経管栄養 第4章 高齢者及び障害児・者の喀経管栄養実施手順		23～32 33～36 37～46 47～50		松田 操

(注意)

通信課題の提出は、入学許可後自学自習して入学から前半3ヶ月で全ての履修すべき教科の課題を提出して、C以上の評価を受けることが必要です。また面接授業の必修科目「介護過程Ⅲ」は、一日7時間授業の7日間（ただし最終日は3時間）と、実践編の「喀痰吸引」「経管栄養」は、一日7時間授業の2日間を後半3か月の間に集中して受講することになります。

介護福祉士養成実務者研修講座（通信課程50名）の内容は、「自宅学習（課題に対するレポート提出）＋面接授業9日間」です。

- ① まずは自宅でテキストを見ながら課題集を解き進めます。
- ② 課題提出（通信添削指導並びに評価点数がC評価以上）が完了したら、自宅学習の内容を踏まえ、面接授業で講師の指導のもと実践的な演習を行います。
- ③ 面接授業は週1回～週2回で、働いている方でも負担なく受講できます。
- ④ 欠席の場合は、無料で振替受講ができます。
- ⑤ 介護福祉士養成実務者研修講座の修了は、入学6か月後となります。